

各支部、創意あふる3戦術で 動労千葉破壊策動を粉碎!



中央「本部」暴力集団は四月二十八日良心的組合員を「指令」の名をもって全国からかき集め、良心的組合員を「かくれミノ」にした「オルグ」と称する破壊策動を開始した。

組合費を湯水のごとく使い、暴力分子をかき集め、学生部隊までも投入したセクト的な動労私物化をかくそうともしない、その上、竹竿、ボール、カゲヤ、ペンチ、ノコギリまでも使い、投石しながらいきなり襲いかかるという破壊策動のくり返しが、結局動労千葉の団結をさらに固めるという結果にしかならなかった、そういう経過の上での焦りかられた新たな破壊策動であることを、われわれははっきりと見すえている。

機動隊に守られて
またも卑劣な奇襲!
――津田沼支部――

第一日目の四月二十八日は約一、三〇〇名の部隊を投入し、林委員長以下の中執を現場に狩り出し、城石、小谷、今井らが中央で指令を発するという動労私物化丸出しの破壊策動が行なわれた。

動労千葉は津田沼支部において一〇〇名の部隊をもつて敢然と対峙し、一歩も庁舎内へ踏み入れさせなかったのはじめ、各支部での創意をこらした対応によってこの破壊攻撃をはね返した。

津田沼支部においては、福田副委員長以下約二五〇名の集団でおいかけてきたが、暴力集団は竹竿とヘルメットがないため先頭に立って突っこむこともできず、良心的組合員の後に立って、うちふるえている有様であった。

動労千葉はこのオルグ団に対し、津山大会の暴力「水本」「三里塚」「貨物安定宣言」等々について、マイクを使って話しかけ、多くの動員者がうなづいて聞くという状態となり、「津山大会で暴力はなかった」と放言する「津山支部」の腕章をまいた動員者等とのキ裂が鮮明に暴き出されていった。

また、卑劣な「本部」暴力集団は福田をはじめとする「オルグ団」が引き上げた直後を狙い、空巢狙いの奇襲を行なってきたが、万全の防衛体制をもつて乱入を許さず動労千葉組合員の糾弾の前に青ざめ、四月十七日と同じように迎えに来た機動隊に守られながら引き上げて行ったのである。

動労千葉に奔口ウされ、
当局にヤツ当リ!

また、他の支部においては組合員の全くいない職場に入り込み、成田支部における林委員長、佐倉支部における青木書記長をはじめ動労千葉の肩すかしを区当局に当り散らすだけで、何も得ると

ころなくいたずらに時間を費すだけで空しく引きあげていったのである。

特に、千葉地本排除、動労千葉破壊の主謀者である青木書記長の憶病なふるまいは千葉管内の物笑いのタネになっている。

また、家庭へ押しかけた部分も慣れない土地でウロウロし、やつと探し当てた組合員宅においても家に入れてもらえず消耗をくり返すのみであった。

千葉駅では仕事上の乗務員に
嫌がらせ!

このような全く「オルグ」にならない状況の中で、焦りに焦った暴力集団は千葉駅に大挙して押しかけ、各ホーム詰所を取りかこみ、仕事上の乗務員への嫌がらせを繰り返したのである。

特徴的には五、六番線ホーム詰所の周りをとりかこみ、乱入せんとすきをうかがい、一時は出勤乗務員が勤務につけないような状況にさせ、あげくのはては、詰所の扉の鍵をこわしにかけ、当局と押し問答の末ガラスを割るなど、まさに常軌を逸した行動を繰り返したのである。この暴力集団こそが夕刻津田沼を奇襲し失敗に終わった部隊である。

その他東京管内への乗り入れ先においても、執拗な「オルグ」が繰り返され、仕事上のこのような嫌がらせが過密ダイヤの中で反合・運転保安闘争を聞っている動労千葉組合員の気持をますます、この暴力集団を許せない気持にさせているのである。

一体、なんのための「オルグ」か!

「本部」暴力集団の低劣さと無能さを示して余りある千葉地本破壊攻撃と言わなければならない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!